

# Eppendorf Luncheon Seminar

京都大学大学院農学研究科  
応用生命科学専攻  
小川 順 教授

もれなく  
ピペット型  
ボールペン  
プレゼント!



## — 微生物機能探索・虎の巻 —

有用脂肪酸・アミノ酸・核酸生産、酵素機能開発に見る「微生物の探・観・拓」

「微生物機能の探索と開発」という分野では「何ができるのか」が最重要であり、それを達成する手段としての微生物種には固執しないのが信条である。したがって、研究は目的にかなう微生物を探すことから始まる。時として、有るか無いかも定かでない段階から始まるその作業は、発見の確率を上げるべく創意工夫が展開される腕の見せ所であるが、地道なモチベーションを必要とする泥臭いものである。その正攻法はより多くを効率良く評価することにつけるが、それでも見つかるとは限らない。しかし、転んでもタダでは起きない思いがあると、しぶとい観察の末に予期せぬ発見に出くわしたりするのが微生物機能探索の面白さである。苦労の末出会った微生物は愛着を持って磨き上げられ、その機能が開拓されてゆく。本セミナーでは、論文からだけでは見えてこない、そんな研究の経緯を振り返ってみたい。

**eppendorf**